

第4章 第2次計画における目標

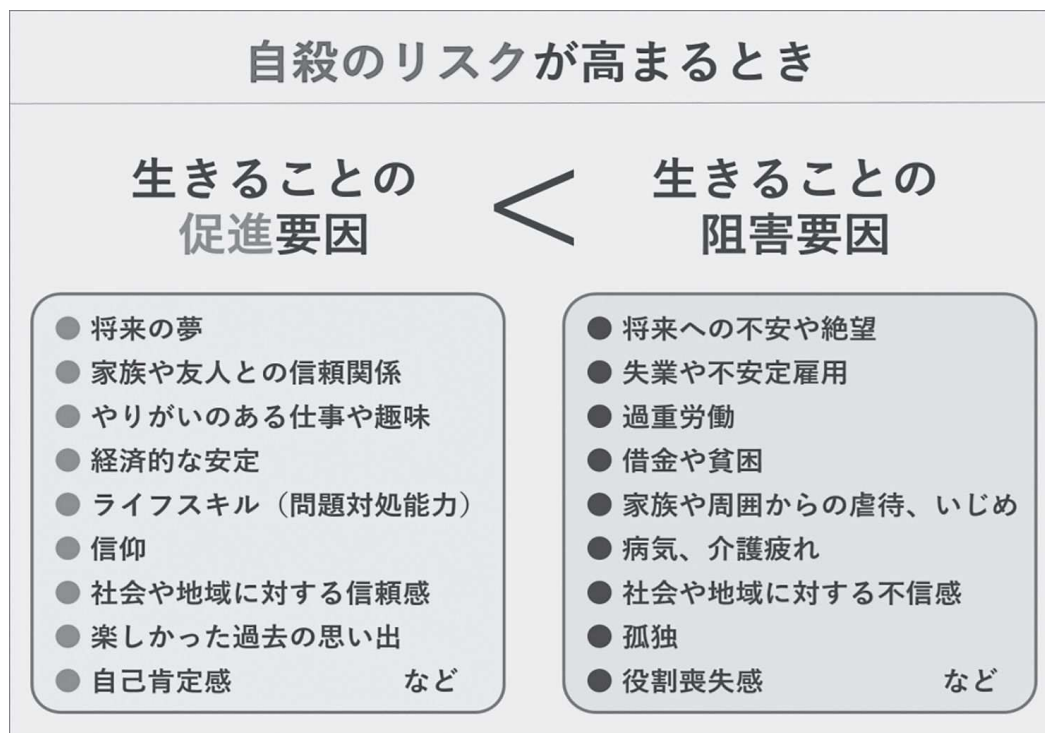
1 | 計画の目標

(1) 目指す姿

自殺に至る原因は、健康問題、経済・生活問題、人間関係の問題のほか、地域・職場のあり方の変化など様々な要因とその人の性格的傾向、家族の状況、死生観などが複雑に関係しており、「生きることの促進要因（自殺に対する保護要因）」より、「生きることの阻害要因（自殺のリスク要因）」が上回ったときやいくつかの問題が重なり深刻化したときに自殺が起こるといわれています。

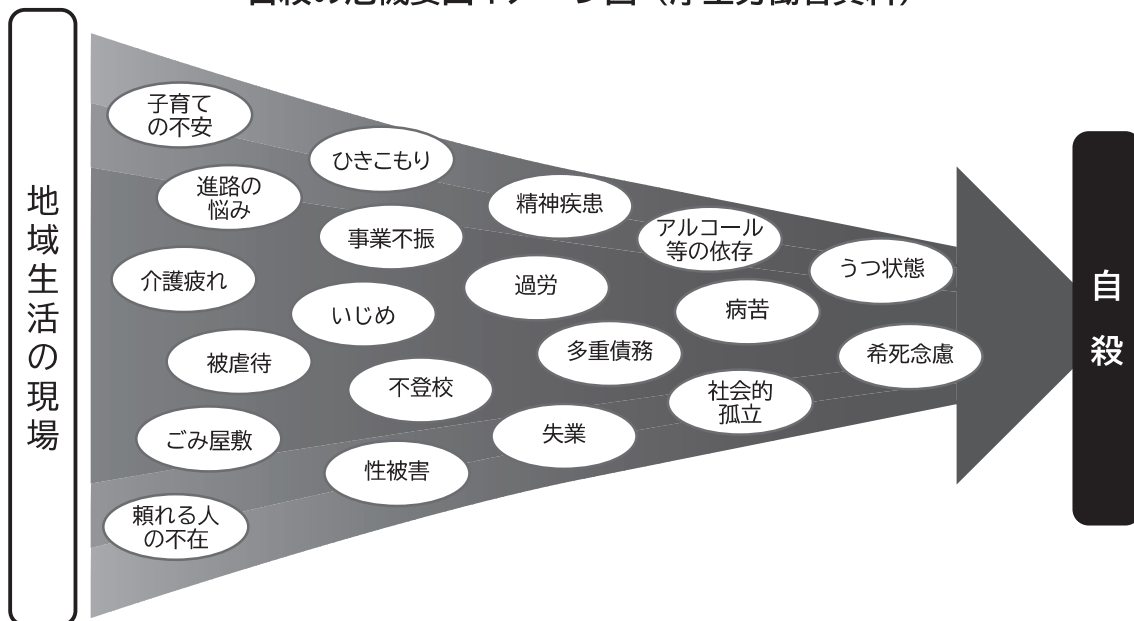
自殺は、防ぐことができる社会的問題であるという認識の下、「生きることの包括的な支援」を地域全体で総合的に推進していくことが重要です。

「生きることの阻害要因」を減らす取組と「生きることの促進要因」を増やす取組を両輪で展開していくことで自殺リスクを低下させ、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指します。



資料：いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）作成

自殺の危機要因イメージ図（厚生労働省資料）



- 社会が多様化する中で、地域生活の現場で起きる問題は複雑化・複合化してきている。
 - 複雑化・複合化した問題が最も深刻化したときに自殺は起きる。
- 「平均4つの要因（問題）が連鎖する中で自殺が起きている」とする調査※もある。

※出典 NPO法人ライフリンク

（2）目標値

国は、平成29年に閣議決定した自殺総合対策大綱において、自殺死亡率を先進諸国の水準まで引き下げることを目指し、令和8年までに平成27年と比べて30%以上減少させることを目標と定め、その目標は、令和4年10月に閣議決定した新たな自殺総合対策大綱においても引き継がれています。

また、北海道は、令和5年3月に策定した第4期北海道自殺対策行動計画において、令和9年までに平成28年と比べて30%以上減少させることを目標としています。

江別市においても、国や北海道の方針を踏まえて同水準で段階的に自殺死亡率を引き下げることを目指し、令和10年までに平成29年と比べて30%以上減少させ、14.0以下とすることを目標とします。

(人口10万対)

指標	基準値	現状値	目標値
対象年	平成29年	令和4年	令和10年
自殺死亡率	20.1	15.0	14.0